

(仮称)川柳学園設計・建設説明会 質疑回答内容

	質問	回答	項目内容
1	特別支援学級を使用できるのは小学5年生～中学3年生までか(対象学年について)。	川柳小学校に現在、特別支援学級を設置していないため、(仮称)川柳学園として開校する際には、特別支援学級を設置していく予定である。その際、特別支援学級を高学年校舎又は低中学年校舎のどちらに設置していくかについては、学級編制がどうなるかによることから、学校長と市教育委員会と協議を進めながら決定していく予定である。	学校設備・諸室に関する事
2	新校舎は5、6年生のみが入るとのことだが、普通学級数はいくつあるのか。	新校舎は川柳小学校の5年・6年生のみの高学年校舎であり、普通学級数は18教室を予定している。	学校設備・諸室に関する事
3	5、6年生に9教室ずつということでしょうか。また、音楽室や理科室等の特別教室も高学年用ということでしょうか。	そのとおりである。それに加え、特別支援学級教室も配置される。また、音楽室や理科室などの特別教室も高学年用として設えている。	学校設備・諸室に関する事
4	既存校舎の中学生と5、6年生と一緒に交流できる場所は「交流プラザ」が使えるということか。	小学生と中学生の校舎は基本的に別々となっているため、交流プラザは双方が交流をする場として使用してもらう考えである。	学校設備・諸室に関する事
5	新校舎は、PFI事業のため市の関わりはないと聞いた。(仮称)川柳中学校は、市が関わるということでしょうか。また、維持管理は別々になるということか。	PFI事業として、川柳小学校高学年校舎は、学校建設のみPFI事業として行うこととしており、維持管理業務は含まれていない。また、(仮称)川柳中学校については、PFI事業外であることから維持管理業務は、これまでどおり市教育委員会が行っていくこととなる。従って、川柳小学校低中学年校舎と高学年校舎、新たな中学校の維持管理業務については、他の市内小中学校と同様、学校と市教育委員会が連携して管理を行っていくことになる。	学校設備・諸室に関する事
6	(仮称)蒲生学園はPFI事業であるため、事業者が維持管理ということでしょうか。(仮称)明正学園の方はどうなるのか。	(仮称)蒲生学園の維持管理業務は、PFI事業者が実施していくことになる。また、(仮称)明正学園については、明正小学校、光陽中学校それぞれの既存校舎を使用し、学園を構成することとなるため、維持管理については、これまでと同様に市教育委員会が行っていくことになる。	PFI事業者に関する事
7	資料の立面図を見ると、地下1階が空欄になっているが、ここには何があるのか。また、多目的室と既存校舎の屋内運動場があるが、高学年児童は多目的室で体育を行うということでしょうか。	資料の地下空欄部分は、大雨のときに一時的に水を溜める貯留設備である。また、多目的室では軽運動などができる設えとなっており、体育の授業でも利用できる計画としている。なお、多目的室の大きさは、川柳小学校の体育館のステージを除いた床面積と同程度の大きさとなっている。	学校設備・諸室に関する事
8	多目的室は1階ではないことから、下の階に騒音や振動等の影響が出るのではないのか。この多目的室を1階ではなく、2階にした理由は何か。	多目的室の床を二重床の仕様としている。音を出来るだけ伝えないよう、弾性材を使用した計画としているが、周波数によっては音が下に抜ける場合もあると思われる。また、多目的室を2階に設えた理由であるが、日影規制や高さ制限により校舎の北側と民地の距離をなるべくとること、さらに既存の中学校の校庭の面積も維持しなければならぬ点から、2階に配置する設計とした。	学校設備・諸室に関する事
9	川柳小高学年校舎に通う児童は、同じ敷地内にある中学校に通うが、蒲生南小学校出身の子どもたちはどこの中学校に通うのか。	蒲生南小学校を卒業した児童は、南中学校が進学先となっている。令和9年3月に蒲生小学校の敷地内に蒲生小学校と南中学校が一体となった新たな校舎ができた際は、南中学校が移転するため、そちらの学校に通学することになる。	計画内容に関する事
10	高学年校舎が完成するのは2026年か、2025年か。供用開始はいつか。令和9年に高学年校舎開校ではなく、その1年前に移動ということでしょうか。また、(仮称)蒲生学園も同じスケジュールであるか。	令和9年度に(仮称)川柳学園が開校としているが、川柳小学校高学年校舎の使用開始は、2026年、令和8年4月からとなる。なお、(仮称)蒲生学園については、令和8年9月の2学期から小学生のみ使用開始となる。それぞれ校舎使用の日程が異なるが、3学園の開校は足並みをそろえる形で令和9年4月としている。	計画内容に関する事

(仮称) 川柳学園設計・建設説明会 質疑回答内容

11	川柳小学校の学童保育室、第3仮設校舎についても伺いたい。現在、学童保育室を使用している児童は仮設の方に移動となるのか。その際、学童保育室を利用する児童は何人くらいになるか。また、現川柳小学校の建築についての説明会はあるのか。	現在、第3仮設校舎を整備しているところであるが、仮設校舎には学童保育室と特別教室を配備し、工事は今年度中に終了する。現在、学童保育室を利用している児童については、新たな学童保育室に移動することになる。利用人数については、青少年課が所管しているため、人数は把握していないが、必要人数に応じた教室数は確保している。なお、川柳小学校高学年校舎の建設に係る説明会は実施するが、現川柳小学校の仮設校舎建設の説明会は行わない予定である。	計画内容に関すること
12	川柳小学校の児童数が令和8年には、1,494人となる推計と聞いた。しかし、5、6年生は現南中学校の敷地に移動ということによいか。	ご質問のとおりである。	計画内容に関すること
13	川柳小学校高学年校舎にエレベーターは付けるのか。	図面に記載をしていないが、給食の配膳と併せてバリアフリー用のエレベーターを設置する。	学校設備・諸室に関すること
14	教室は何教室、1階において入るのか。	計画では、2・3階に普通教室を配置していく予定である。1つのフロアに9教室ずつ、2層にわたっているため、全体で18教室分の普通教室を用意している。	学校設備・諸室に関すること
15	今現在、光陽中学校のプール横には更衣室があるが、新しくなった時にプールの近くに更衣室ができる予定はあるか。	PFI事業で行うのは、高学年校舎の建設のみとなる。従って、南中学校である既存校舎については、そのまま活用していくことになる。また、プールに関しても既存校舎と同様となるので、プール更衣室も現在のものを利用いただくことになる。	学校設備・諸室に関すること